

machi-no
ne
まちな

issue 3
spring, 2025



わたしの好きな景色

土粘土と出会う まちのこども園 代々木上原

クリエイティブスクール レンズ

ストレスを乗り越え、主体性を育む脳科学

こえをきく

こどもたちの学びの物語り

土粘土と出会う

— こどもたちの一年

まちのこども園 代々木上原

土粘土をテーマに選んだ背景

- ・土は私達の生活と密接に関わっている。
- ・水分量やその日の気温により、素材そのものが変化する。
- ・決まった遊び方がなく、こどもたちの創造・想像で遊びが広がっていく。
- ・土粘土は応用性があるからこそ、こどもの遊び方が変化していくことの面白さ。

新入・在園児が入り交じってスタートした、代々木上原園の1歳児クラス。
粘土の形、大きさ、形状、粘土を置くシートの色など、
悩みながらセットアップを考えました。

まちの保育園・こども園では「土粘土」を使っています。
土粘土は、自然の粘土層から掘り起こされた土に
少量の砂を混ぜて作られた粘土のことで、
大地の恵みそのものです。
繰り返し何度も使用する事ができ、
再生力が高く、触り心地も良く、
気温や水分量によっても
手触りが変化し、土が生き
ていることを感じられます。
今回は、1歳児クラスでの
一年を通じた土粘土との
関わりを紹介します。



「まちのね」第二号・表紙のこちらも、土粘土が使われたもの
(まちのこども園 代々木公園にて)

ep.2 サラサラから、つぶつぶへ

砂状の土粘土への興味を発展させて
いくために、少し形状を変化させて
砂状での探究をつけました。
サラサラからつぶつぶへ。



手に乗せて、観察することで
「粒」に気づいたようです。
園庭の砂ともちょっと違う、「つぶつぶ」
の感触に興味を持ったようです。



指先で直線を描き、往復したり
ぐるぐる動かしてみたり。
何度も何度も繰り返します。



つぶつぶだと
広がっている時の
音も大きい!

つぶつぶの「おと」



座ってバラバラ。



もっと高く!
立ってバラバラ。

保育者のこえ

前回のサラサラの砂と比べ、
今回は「音」という楽しみ方が新たに生まれました。
粒子が大きくなったことで、落とした時の音が大きくなり音の魅力を感じやすくなりました。

prologue はじめての出会い



立方体に成形した粘土を、大小のグラデーションで
大きさ順に並べて置きました。こどもがどれを手
に取るのか、知りたかったからです。



すぐには触らず、土粘土との距離を少しづつ縮めていく姿がありま
した。立ったまま、じーっと、ひとつずつ見つけ、初めは指一本でそ
っと触って試してみ、次は、手のひらで触っていきます。



友だちの姿を見つめ、友だちの姿から土粘土を理解しようとして
いるようです。思い切って、触れてみます。重さ、温度感、感触など
を確かめているようでした。



保育者が土粘土に触っている様子もよくみえています。
上から落としたり、丸めてみると、動きを真似ようとしています。

大きさは、持ちやすいせいか、小さいものが人気でした。
急いで小さい立方体を増やそうとしましたが、
こどもの関心が切る道具に移ってしまいました。
土粘土そのものに触れてほしいと思い、
道具は片付けて子供の姿を見ていきます。

「やわらかい」という性質を利用して、ちぎったり、線をつけたり、
慣れてくると、大きな塊にも手を伸ばし、持ち上げて落とすなど、
大きさによって子どもの関わりが異なる様子が見られました。

保育者のこえ

友だちや保育者が触れる様子をよく見る姿がありました。「もの」自体を知るとき、
その「もの」と関わる「人」を通して知ろうとする様子がありました。

初めての土粘土との出会いでは、触れるまでに時間がかかる子もいました。
一人一人がじっくり関わるには、
少人数で丁寧に関わっていく必要があると感じました。

ep.1 砂状の土粘土・泥状の土粘土



水分量の異なる土粘土を準備しました。
感触だけではなく、触った際の音も異なります。
こどもたちの関わりや表現は
どのように変化していくのでしょうか。



砂状の土粘土。
指で触り、手のひらでも
触っていきます。
これまでの土粘土と
異なることを感じている
ようです。



砂状の土粘土は、
少し触れただけでも動き、
形が変化します。
黒いシートの上で、
砂の動きがよく見える
ようにしたことで、
その魅力が増します。



両手で集めて
擦って落としていきます。
まるで摩擦の感覚を
楽しんでいるようです。

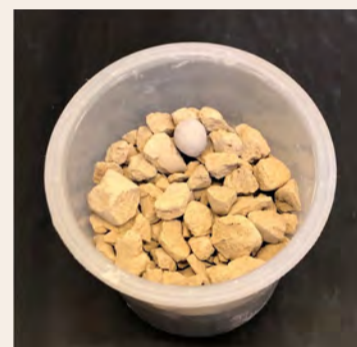


片手で握りますが、
握っても思うように形にならず、
指の隙間からサラサラと
落ちていきます。



泥状の土粘土に触れた後で、砂状の土粘土に触ると、
たくさん指についてきます。
水分に引き寄せられる原理を発見しています。

ep.3 「つぶつぶ」の大きさを変える



前回の「粒状の土粘土」での活動で、
音や足裏の感触に興味をもつ姿が
みられました。
そこで今回は、
より粒が大きくなる
ように準備しました。

～作り方～

- 【つぶつぶ】乾燥させたあと
砕く
- 【サラサラ】つぶつぶを
更に濾す



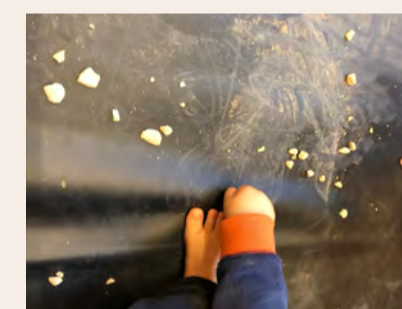
濡れている場所を見つけて、
土粘土の「粒」を使って
水を伸ばしていきます。
その姿を見た子が真似をします。
土粘土は「描く道具」にも
なることを発見しました。



弧を描く。
「おやま」



真ん中に長い線を1本。
「おやまのすべりだい」



「にじいろのすべりだい」



「じえっとこーすたーとかいだん」
「せんせいもってよ」



「つめたい」

足で踏んだとき、
つめたいという言葉がありました。
土粘土=冷たい、というイメージ?
それとも実際に冷たく感じたのでしょうか。

保育者のこえ

これまでは、土粘土が落ちたり置いていたときにできた
ただの「跡」だったのが、
この回から、その跡自体に物語を持たせたり、
その跡を意図的に生み出して表現するようになりました。
関わりを重ねて、「表現」が生まれた瞬間です。



一年間の活動を終えて

こどもたちが初めて土粘土に出会うところから、
一年かけて継続的に活動を行いました。
これからも、一人ひとりの興味関心と
実際にはさらに細かい変化を日々感じることで
できました。
一年間継続したことで、粘土の遊び方が変化して
いくのが興味深かったです。
はじめは感触遊びだったのが、次第にイメージを
膨らませ、ごっこ遊びに展開していきました。

乾かしたり、水っぽくしたり、形を変えてみたりと、
土粘土の可能性を感じる活動でもありました。
これからも、一人ひとりの興味関心と
土粘土との関わりがどんな風に変化していくのか、
成長を見守っていききたいと思います。
(まちのこども園 代々木上原 保育者)

特集

わたしの好きな景色

まちの保育園・こども園の信念は、

「一人ひとりの存在そのものを喜び、互いに育みあうコミュニティを創造する」

違いを大事にしながら、「わけない」こと。

おとなとこどもも、職員同士でも、対話を大切に、日々の保育を考えています。

おなじ環境で過ごし、おなじ人と接していても、そこから受け取るもの、感じ取ることは一人ひとり違います。

そこで、まちの保育園・こども園グループではたらく職員が、どんな視点を持っているのか。

みんなの「園（施設）のなかで好きな景色」を聞いてみました。

まちの保育園 吉祥寺



窓から入る朝日が毎日とてもきれい！子どもたちは、透明のブロックに透ける光を楽しんでいます。（保育士）



園の天窗。天気がよく、風がふき、雲の流れがはやい日。ふと見上げて「保育園がくもにおそろえそう!」と大騒ぎ。くもの流れを追いかけて、さまざまな窓へ。季節、天気、太陽、雨、風、雲をめいっぱい味わう子どもたちの様子。（保育士）



朝、園児がお家の庭から持ってきてくれたミモザの花。保育者が花瓶に入れた瞬間、テーブルに光と影が写し出され、うっとりしました。植物と画材が並んでいる光景も、まちの保育園ならではの、素敵な、美しいと感じます。（保育士）

まちの保育園 六本木



まちの本とサンドイッチ

お店の前のけやき広場で過ごす子どもたちの姿。（まちの本とサンドイッチ スタッフ）

まちのこども園 代々木上原



雲ひとつない青空の日の屋上。（保育士）

広い空とまちの景色を一望できる屋上です。走り回ったり、パーゴラに寝転んだり、ピオトプを観察したりそれぞれがのびのび過ごしています。先日はクラスみんなでパーゴラでお弁当*を食べ、楽しいを分かち合う姿が素敵でした。（保育士）

夕方お迎え時、園の玄関で靴を履いている園児の後ろ姿。小さな背中だが、今日もやり切ったぞ!と、一仕事終えたと言わんばかりに主張しているような姿を見て、「帰ったらおうちの方との時間を満喫してね」という気持ちになります。玄関の窓やドアの隙間から見える、夕陽やライトの灯りがまた良い感じです。（本部職員 / 本社部門）

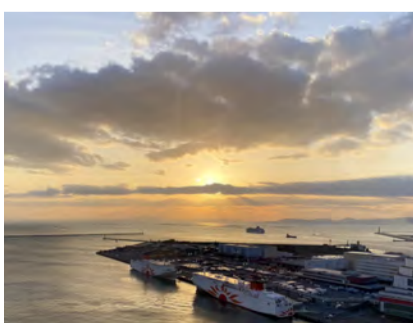
六本木でも緑がたくさんあるんです！
・毎朝、六本木一丁目駅から園に向かう道中、自然を感じられる景色。（好きすぎてよく写真を撮っています）10年以上経った今でも、朝から癒されます。そして、桜や新緑、紅葉、雪を感じられて木々にあたる朝日が気持ち良い。子どもたちが作った巣箱にスズメがいるのも見られます。こげらの庭にはおたまぐしやしもいます。カナヘビも！
・園の目の前の東京タワー。パワーをもらっている感じがします。
・園併設のカフェ、まちの本とサンドイッチの笑顔、その存在。
・本園のエントランス。朝日と木の温もり、植物たちに癒されています。（給食スタッフ）

夕方、保育室の窓の向こうに、お迎えが来て帰っていく友達を見つけて、思いきり手を振る子どもたちの背中。（保育士）

リゾナーレ大阪



28Fに位置するアトリエには大きな窓があります。そこからふと、綺麗な空をみかけたとき。開業当時の忙しなかったときでさえ、窓から外の景色を眺めていた時間があり、「社会人になってもこんな時間があるなんてなんだかいいな」と感じたことを思い出します。たくさんの方が利用していただける現在では、窓に素敵な絵が描かれているのを見つけたり、雨の日に、窓ガラスの雨粒をキャッチするのに夢中なおおさんの姿に出会えたり、優しいきもちをもらえるのもまた幸せです。（アトリエスタ）



閉館の30分ぐらい前、窓から見えた夕焼け。お子さんが光っているところを指差し「あそこは海が深い深いところにあるからあの色なんだよ」と教えてもらった時の夕陽です。（アトリエスタ）

冬の朝、こどもたちの頬が冷たくなるほどの澄んだ空

屋上から見上げる青空に、何がきらりと光った「あっ、ひこうき!」人差し指で、遙か遠くに飛んでいるものを、彼は指差し、目を輝かせた

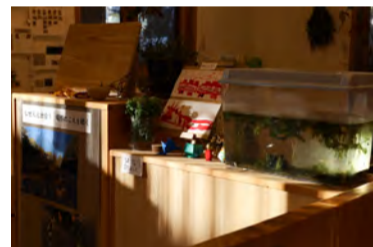
あんなに、遠くを飛んでいるものが、飛行機だってどうしてわかるのかな？

1歳のこどもの姿から、人は、経験が繰り返されると違う映像でもその物を認識できるのだと1人の人の認知の成り立ちを、目の当たりにした瞬間でした

屋上から見る、青い空を見るたびに、発見を伝えたい気持ちに溢れた、輝くような彼の表情を思い出します

今日も、こどもたちと見上げる空には飛行機が青い空にすいこまれていくように、小さくなっていきます（保育士）

夕方、園の受付に差しこむ陽の光。（コミュニティコーディネーター）



まちの保育園 南青山



園の受付から見える、床の隆起での子どもの関わり合い。夕方、異年齢どうしでの活動時に、同じグループの友だちと同じ動きを試してみたり、年上の友達の真似をして体を使ってみたり、成長や関係性が見える。（コミュニティコーディネーター）

はなさかす保育園



各園・各施設の職員みんなが、こどもの姿を楽しそうに語っている姿が好きです。（本部職員 / 本社部門）

こどもたちがアトリエ活動をしているとき、新しい発見をして夢中であれこれ試しているところを、嬉しそうに見守る保育者の横顔。（本部職員 / 本社部門）



朝、早番で出勤した時だけ見られる、3歳児クラスの窓から差し込む陽の光。観葉植物が照らされ、床に木漏れ日が映る景色がとても好きです。先日、朝の時間にその空間で、5歳児クラスの子どもが積み木を並べていて、朝日に照らされていたのがとても綺麗でした。（保育士）

朝一番のわかば（3歳児クラス）。朝日が部屋に差し込んで出来た天然の額縁が、子ども達の作品と重なる瞬間。朝日の優しい光が、心まで温かくしてくれます。早朝なので、まるで美術館のような静寂が心地良い、好きな時間です。（保育士）



窓から差し込む日の光が子どもたちを照らし、背中から伸びる細長い形の影。その子ども同士が見つめ合い、思わず笑みがこぼれ、照れてしまっているその表情。（保育士）

夕方から夜にかけて、3歳児の部屋から見える渋谷の夜景。「都会だなあ」と感じます。（保育士）



まちのこども園 代々木公園

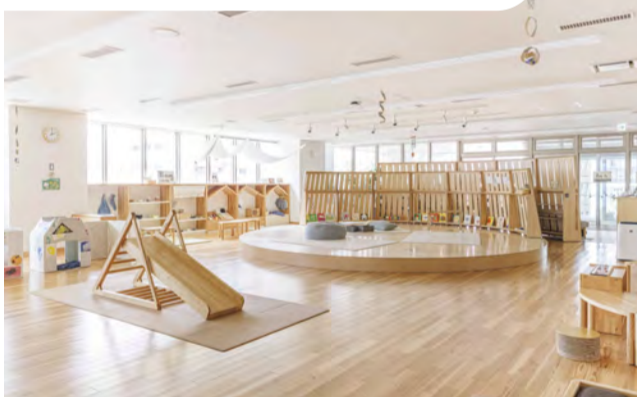
まちの保育園 小竹向原



園庭から見える空の景色。特に日中の青空と飛行機、延長保育の時間に見える夜空。（保育士）

水色、空のいろ。（保育士）

こしゅば（渋谷区神南ネウボラ子育て支援センター）



2階のアトリエで、なにをしようか、と親子で素材を眺めながらワクワク相談しているところ。同じく2階にあるプレイグラウンド、乳児エリア側の大きな窓から、まちの風景（主に小学生）の姿が見える。季節や成長を感じたり、利用者さんと『この子もいつか小学生に〜』と将来に思いを馳せてみたいと思いがあります。（子育て支援スタッフ）

COの食卓



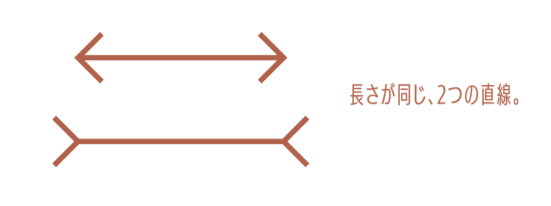
お店のキッチンから見える、ゆったりと楽しそうに過ごしているお客さんたちの光景が最高です。（coの食卓 スタッフ）

お腹空いたね。美味しそう。美味しかった。カステラ食べたい。バナナケーキが美味しいんだよ。レジ前にいると、そんな声が聞こえてきて楽しくなります。レジ横に陳列された焼き菓子を、背伸びをしてなんとか取るうとする子どもの姿。『出産してから子連れで初めての外食』に緊張しつつ嬉しそうな、お母さんの顔。（coの食卓 スタッフ）

*お弁当給食：レジャーシートを敷いて、お弁当（パンなどこぼさず食べられるもの）を子どもたちと一緒に食べるちょっと特別な日。キッチンチームと連携して実施しています。

| | |
|---|--|
| <h2>今と未来を 考える</h2> <p>保育・教育をめぐる 社会のあれこれ</p> | <h3>③</h3> <h2>ストレスを乗り越え、 主体性を育む 脳科学</h2> <p>さまざまな節目の時期でもある春。気持ちも体調も揺らぎやすくなります。こどもと接するうえで、大人に余力を残しておくことの大事さを感じます。自分のケアもままならず、忙しい日々を過ごすわたしたち。少しでも心地よく暮らしていけるようなヒントを、脳科学の視点から青砥瑞人さんに伺いました。</p> <p>お話／青砥 瑞人さん</p> <p>応用神経科学者 株式会社DANCING Einstein代表</p> |
|---|--|

私たちがみている世界は、 脳が作り上げたもの？



いわゆる「錯視」を利用した図ですね。見たことのある方も多いかもしれません。このように、我々は目で見た情報をそのまま受け取っているように思いがちですが、実際には脳が自動的に補正・解釈をされていて、結果として「違って見えてしまう」ことがあります。つまり、「見えている世界」は、脳が作り上げた認識の世界だとも言えるんです。そしてこの「脳の解釈」は、我々が日常で感じている「ストレス」とも深く関わっています。

「記憶」は、ただの記録ではなく 「自分の一部」になる

こうした経験は、脳に記憶として蓄積されていきます。興味深いのは、記憶はただ思い出すための情報ではなく、「自分らしさ」や「世界の見え方」にまで影響を与えるとことです。たとえば、「つらかったけれど、自分で乗り越えられた」という体験は、その人の強さやしなやかさの土台になっていきます。記憶は、我々の感情や思考の“クセ”をつくり、未来の選択にも影響してくるのです。

ただし、こうした記憶は自然と定着するものではなく、意識的に振り返り、自分の中に取り込もうとする姿勢があってこそ、深く根づいていきます。ストレスを感じたとき、「自分はどんな状態なのか？」を丁寧に観察し、適切に対処する。このプロセスを何度も経験することで、脳は「うまく乗り越える」ための回路を強化していきます。

つまり自分自身の状態に気づく力を育て、それに合ったストレス対処法を学び、繰り返すことで、脳は“ストレスとうまく付き合うモード”へと切り替わっていくのです。そうなれば、同じ環境にいても、見える世界が変わる。脳の働き方が変わること、我々が「世界をどう感じるか」も変わりうるのです。

実はこの「知りたい!やってみたい!」という気持ちが生まれているとき、ドーパミンと呼ばれる神経伝達物質が合成され、学びや記憶の定着も進みやすくなっています。

「やる気」は、やるからこそ育つ

「幸せな子を育てるのではなく、どんな境遇に置かれても幸せになれる子を育てたい。」これは、上皇后・美智子さまのお言葉で、僕自身がとても大切にしている考えです。

大人になってから新しいことを始めると、よく聞かれることがあります。「それって何の意味があるの?」「ゴールや目的は?」と。たしかに、目的を持って行動することは大切です。でも、たとえば公園で夢中になって砂を掘っている子どもに、「それ意味あるの?」なんて聞いたりしませんよね? 一見、意味のないような行動でも、ドーパミンを合成するための神経回路を使い、そして育んでいます。この過程にはとても意味があります。それだけでなく、その何気ない無目的な行動から、新しい発見などにも繋がり、さらなる好奇心を刺激する可能性だってあります。k おどもも大人も同じです。まずは目的など気にせず、好奇心ベースで行動し、経験

みなさんは「ストレス」と聞いて、どんな印象を持ちますか? 多くの人は、「しんどい」「できれば避けたい」と思うのではないのでしょうか。でも実は、ストレスは生物にとって極めて重要なサイン。変化や異常を知らせ、行動を促すための大切な仕組みなんです。また、時には我々のパフォーマンスを高めてくれる効果もあります。だから、「ストレス=悪」と決めつけるのではなく、うまく付き合っていく視点が必要です。

「気づく力」を支える脳の働き

我々の脳には、ACC（前部帯状皮質）という部位があります。ここは、エラーや違和感をキャッチするセンサーのような役割を果たしていて、「おかしいな」「何か変だな」と気づくために重要な働きをしています。このACCのおかげで、我々は危険を察知し、生き延びてこれられたともいえるのですが、現代のように情報が多すぎる社会では、

ウェルビーイングを育むために

ストレスへの気づきとともに大切なのが、「どこに意識を向けるか」ということ。脳は、よく使う回路がどんどん強化されていく性質があるため、ポジティブなものに目を向ける習慣を持てると、脳の反応も前向きに変化していきます。これは無理にポジティブになろうとすることではなく、「小さな喜びや感謝に気づく」「うれしかったことを言葉にする」といった、シンプルな意識の向け方で十分です。そしてこうした積み重ねが、「ウェルビーイング」を育む上でとても重要となります。

では、そのウェルビーイングとは、そもそもどんな状態を指すのでしょうか? 嬉しいことがあった瞬間、我々は「ハッピー!」と感じます。でも、そのハッピーな気持ちは永遠に持続するわけではなく、次第に薄れていきますよね。「ハッピー」はあくまで、一時的に起こる「反応」なのです。それに対して、ウェルビーイングとは、ただ一時的に幸せを感じるのではなく、その幸せな感情や体験を、脳に記憶として定着させ、自分の一部として持ち続けられる状態のこと。たとえば、「あのとき、本当にうれしかったな!」と思っただけで、また少し心が温かくなるような、そんな状態のことを指します。ただし、ウェルビーイングな記憶も自動的にには作られません。意識的にポジティブなことに

ていく中で、自分にとって必要なゴールや目的設定をしていくことが重要です。経験している、後から自分にとって必要な目的や意味が見えてくる。むしろそのほうが、納得感や持続性のある目標になることが多いのです。

心理的安全性が好奇心を引き出す

子どもたちに寄り添う大人として意識したいのは「心理的安全性」です。「無目的な探索」も、心理的安全性が保たれていなければ発動しません。安心して「やってみたい」と思える空気があってこそ、冒険できるものなのです。失敗しても受け止めてもらえ、思ったことを口にしても否定されない。そうした信頼や受容の感覚があってこそ、こどもたちは思いきり好奇心を広げることができます。また、大人になると、すでに多くのことを「知っている」ため、無意識のうちに物事を型にはめて見てしまいがちです。しかし、たとえ最初は筆を手にする子どもは、「どう使っていないかわからない」時間を持ちます。その「最初の出会い」の時間こそが、探索的な好奇心を育むためにとても重要なのです。「これはこう使うもの」と教えなくなる気持ちを少し脇に置き、びっくりするようなことが起きても、余裕が

ネガティブな情報にばかり反応してしまうことがあります。これを「ネガティビティ・バイアス」と呼びます。

この偏りが強く働くと、物質的には満たされているはずなのに、精神的には疲れてしまうという状態になります。だからこそ、脳の特徴を踏まえた上で、どのように向き合うと良いかと考えることがとても大切になってきます。

では、どうやって自分のストレスと向き合えばいいのか? ここで登場するのが、「サリエンスネットワーク（SN）」と呼ばれる脳のメカニズムです。これは、自分の内側の変化——たとえばストレスを感じたときに「いま、ちょっとしんどいかも」と気づくためのしくみです。この「気づく力」が高い人ほど、小さなストレスを早めにキャッチしてケアすることができます。一方で、ストレスに気づきにくい人は、知らないうちにためこんでしまい、その結果、うつなどの不調につながりやすい傾向があります。

注意を向け、最初はおぼろげな記憶を繰り返し引き出すことで、脳は「幸せを感じやすい回路」を育てていきます。

鍵となる「アクティブハピネススキル」

“幸せを記憶として定着させる力”を育てるために大切になるのが、「アクティブハピネススキル」だと考えています。これは、自分の中にある小さなハッピーに気づき、それを丁寧に味わい、意識して記憶に刻むための習慣やスキルのことです。たとえば、

- ◎ ちょっとした「ありがとう」を言葉にすること。
- ◎ 誰かのやさしさに気づくこと。
- ◎ 「今日よかったこと」を日記に書くこと。

そんな小さな行動が、実は脳のウェルビーイング回路を育ててくれるのです。とくに子どもと関わる場面では、ちょっとした「好奇心」や「ワクワク」を大切にすることも大きなポイントになります。まわりの大人が小さな喜びを味わいながら過ごしていると、その姿を見て子どもも自然とまねし、同じような感覚を育んでいくことが期待できます。「これっておもしろいかも」「もっと知りたい」と前向きに世界に働きかけようとする反応は、まさに脳が活性化しているサイン。

あるときはプレーキをかけずに一緒に楽しんでみましょう。怒りや指示ではなく、共に探求する姿勢が、こどもたちの好奇心とウェルビーイングを大きく育ててくれるはずです。好奇心は、何かを知りたい・やってみたいという自然な衝動です。しかし、それを感じる力は環境によって引き出されます。逆に、閉じてしまうこともあります。現在、広告やSNS、動画などで、常にアテンション（注意）の奪い合いが起きています。より強い刺激を求め続けることで、感覚が鈍り、「ちょっとした好奇心」では満足できなくなってしまう危険もあります。だからこそ、自分でフィルターをかけて、何を取り入れるかを選び取ることが重要です。そして、静かに自分の内側と向き合う時間を持つことが大切です。禅や瞑想は、まさにそのための練習です。こうした「内側への気づき」を日々意識していくことで、脳の可塑性（変化・適応する力）を活かし、自然と好奇心を引き出しやすい状態に変わっていきます。

日々の関わりの中で、子どもが安心して「やってみよう」と思える場を整え、目的に縛られず自由に試し、感じ、考える時間を保障すること。それが、どんな時代にも柔軟に生き抜く力を育むことにつながるのではないのでしょうか。

日々の関わりの中で、子どもが安心して「やってみよう」と思える場を整え、目的に縛られず自由に試し、感じ、考える時間を保障すること。それが、どんな時代にも柔軟に生き抜く力を育むことにつながるのではないのでしょうか。

このお話は、まちのこども園 代々木木原にて講演をいただいた内容から、紙面の都合上一部抜粋してお届けをしています。青砥さん、どうもありがとうございました!

まちのねのね

まちのチームの読む辞典

| | | | |
|---|--|---|---|
| ち 【地域との共創、加賀市】 地域の共創はもとも学びが深く有り難い時間です。石川県の加賀市と私たちがグループで協定を結び、共に保育やまちづくりに関わらせていただいています。 | ち 【たのさん】 小竹向原園の近くにある、八百屋さん兼お惣菜屋さん。野菜そのものの味が生かされているシンプルなお惣菜が本当に美味し。フライ系もしっかりあり、お弁当をたまにいただいています。焼き芋はもはや小竹町の名物級。 | ち 【鳥博士】 六本木園のある東京・港区の大会にも様々な種類の鳥がいるんですね。六本木園は森ビルさんの建物（アークヒルズ）の中にあり、鳥博士は、こどもたちが鳥への興味を芽生えたときに森ビルさんからご紹介いただき、それから10年以上一緒に過ごさせていただいています。園の付近にも7種類の鳥がいることを教えてくださったたり、ご厚意でアークヒルズに巣箱を設置させていただき、なんとその巣箱で子育てが始まり……といった具合に都市部での鳥の探究は子どもたちのみならず、大人も心動かされるたくさんの物語を起してくれています。子どもたちの「鳥の研究」は代々継承されていて、もう10年を越えてきました。鳥博士にいつも感謝しています。 | ち 【鳥博士】 六本木園のある東京・港区の大会にも様々な種類の鳥がいるんですね。六本木園は森ビルさんの建物（アークヒルズ）の中にあり、鳥博士は、こどもたちが鳥への興味を芽生えたときに森ビルさんからご紹介いただき、それから10年以上一緒に過ごさせていただいています。園の付近にも7種類の鳥がいることを教えてくださったたり、ご厚意でアークヒルズに巣箱を設置させていただき、なんとその巣箱で子育てが始まり……といった具合に都市部での鳥の探究は子どもたちのみならず、大人も心動かされるたくさんの物語を起してくれています。子どもたちの「鳥の研究」は代々継承されていて、もう10年を越えてきました。鳥博士にいつも感謝しています。 |
|---|--|---|---|

| | | | |
|---|--|---|---|
| と 【tomocokuraぶ】 子育て支援センターの「トコぶ」や、家庭や地域の方に施設やコミュニティづくりの企画運営に参加いただき、共にトコぶをやつづくっている倶楽部活動的な、ゆるやかな集まり。支える側と支えられる側を「わけない」考えから。なんだかいつも楽しそうです。 | と 【東京大学 CDEP】 とうとうだか、トコぶ。 | と 【鳥博士】 六本木園のある東京・港区の大会にも様々な種類の鳥がいるんですね。六本木園は森ビルさんの建物（アークヒルズ）の中にあり、鳥博士は、こどもたちが鳥への興味を芽生えたときに森ビルさんからご紹介いただき、それから10年以上一緒に過ごさせていただいています。園の付近にも7種類の鳥がいることを教えてくださったたり、ご厚意でアークヒルズに巣箱を設置させていただき、なんとその巣箱で子育てが始まり……といった具合に都市部での鳥の探究は子どもたちのみならず、大人も心動かされるたくさんの物語を起してくれています。子どもたちの「鳥の研究」は代々継承されていて、もう10年を越えてきました。鳥博士にいつも感謝しています。 | と 【鳥博士】 六本木園のある東京・港区の大会にも様々な種類の鳥がいるんですね。六本木園は森ビルさんの建物（アークヒルズ）の中にあり、鳥博士は、こどもたちが鳥への興味を芽生えたときに森ビルさんからご紹介いただき、それから10年以上一緒に過ごさせていただいています。園の付近にも7種類の鳥がいることを教えてくださったたり、ご厚意でアークヒルズに巣箱を設置させていただき、なんとその巣箱で子育てが始まり……といった具合に都市部での鳥の探究は子どもたちのみならず、大人も心動かされるたくさんの物語を起してくれています。子どもたちの「鳥の研究」は代々継承されていて、もう10年を越えてきました。鳥博士にいつも感謝しています。 |
|---|--|---|---|

| | | | |
|--|--|---|---|
| な 【ナイス (naive)】 まちの保育園こども園各園に常駐。本当に頼もしい存在です。そしてまた一人ひとりがとても個性的。園にいなくはならない存在。 | に 【ニユーダイバーシティスクール 東京】 Neurodiversity School In Tokyo (N2IT) | ぬ 【ぬいぐるみの発明】 かつて、小竹向原園でどのようなぬいぐるみの子どもたちに手渡したいか、みんな対話したかちしてみました。保護者にも参加したか縫い物もしました。子どもたちと共に、自分たちもつくり手の感覚を常に持ったこと。 | に 【西参道】 日本将棋連盟さんが運営している、駒テラス西参道（渋谷区）。まちづくり、コミュニティづくりで一緒にしています。 |
|--|--|---|---|

| | | | |
|--|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|
| ひ 【百の言葉】 Lectio Emendatioの哲学。僕は「こどもたちの百の言葉展」を取りあげられた、ロリスラマガツツイの詩（でも、百はある）を学生のとき | ひ 【はなさかす保育園】 はなさかす保育園 | ひ 【花見、雨だけどね】 はなみあめだけどね | ひ 【畑】 はたけ |
|--|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|

| | | | |
|--|---|-------------------------|---|
| ほ 【HOME/WORK/VILLAGE内】 世田谷の廃校を活用した「HOME/WORK VILLAGE」という場がこの4月にオープン。この中で私たちは子どもたちをつくることにしました。4歳〜小学生のための場からスタートし、「レンジ」と名付けてみました。 | ほ 【ボーダー・クロッシングス展】 Lectio Emendatioが世界7カ国19都市で開催した「デジタルと自然をテーマにした国際展覧会 MoMA」も開催されアート領域からも注目されています。IRREAの企画し日本では東京イタリヤ文化会館、ポララ青山ビルディング、加賀、軽井沢、奈良を巡回。アトリエがあり、関わりながら展覧会を経験する。各地で子どもたちもたくさん来てくれました。アトリエの構成やデジタルランドスケープについてとても学びが深かった。 | ほ 【変化】 ひんか | ほ 【ブルチーゾのパン】 まちのパラーのパン。これは、ワインに合います。 |
|--|---|-------------------------|---|

松本さんに聞いてみました

Q. こども時代をもう一度過ごすことができるとしたら、どのように過ごしてみたいですか?
A. たくさん、ムダなことをしたいのです。

Q. 大事にしている言葉は?
A. “人それぞれの言葉”。

Q. 好きな言葉を教えてください!
A. たのしみ、おもしろがる。

私たちの園や様々な場で、大切にされていることや文化、頻出する言葉たちを、辞典形式でお届けするコーナー。気になったところから、つまみ読みしていただきたい「読む辞典」として、私たちの周りに「ねっこ」としてある言葉たちをご紹介します。今回は、【た】からスタート。

【対話】
たいわ
動画や「なご」わかりやすい「情報へのアクセスが容易になっていますね。それが、ずいぶん私たちの思考やアイデアや日常の様々なことを支えているなと思いますし、私もいろいろと使っています。その中、どれだけ考へてもつぼりわかりません。このや、段々わかっていくこととの時間も大事にしたいなと思うようなことがあります。『対話』は、園でよく使われている言葉です。人どうし、そして、あらゆる事物や場との対話。何かをわかち合ったり、わかれないことと誰かと一緒に向き合ったり。複雑で豊かな自然や、じんわりと響いていく文化に耳を澄ましてみたり。子どもたちの姿を理解するためにもよく『対話』がされます。その時は、園の職員どうしのみならず、家庭や地域・社会の人にも参加いただき、対話が深まるなど実感しています。小竹向原園が開催している移動型の「ドキュメンテーション対話」は一般の方にも開かれているのがおもしろい。こども同士もよく『対話』しています。

【ディアス・クラシック】
「Dias Classic」
私たの園車。まちの号」と呼ばれています。愛嬌のある、水色のスバルの軽自動車。運搬や急な対応のために小回りが効いてよいです。グーラーをつけてスピードを出すとオーバードライブしてしまふ可愛いやつ。だから人にエアコンをあまり使わなくさせるようなニコカー。

【tomocokuraぶ】
ともこくらぶ
子育て支援センターの「トコぶ」や、家庭や地域の方に施設やコミュニティづくりの企画運営に参加いただき、共にトコぶをやつづくっている倶楽部活動的な、ゆるやかな集まり。支える側と支えられる側を「わけない」考えから。なんだかいつも楽しそうです。

【ナイス (naive)】
まちの保育園こども園各園に常駐。本当に頼もしい存在です。そしてまた一人ひとりがとても個性的。園にいなくはならない存在。

【ニユーダイバーシティスクール 東京】
Neurodiversity School In Tokyo (N2IT)

【ぬいぐるみの発明】
かつて、小竹向原園でどのようなぬいぐるみの子どもたちに手渡したいか、みんな対話したかちしてみました。保護者にも参加したか縫い物もしました。子どもたちと共に、自分たちもつくり手の感覚を常に持ったこと。

【ねんど】
子どもたちの表現言語の一つとして、仲間よくなっているねんど。まちの保育園こども園では陶芸用の土粘土を使っています。

【フロンタクトタイム】
Front Contact Time
保育者のための研究や対話の時間。この時間は保育的にも、働き方改革的にも、保育者のウェルビーイング的にも大事だと、組織でこの時間の充実を目指しています。

【パラー 江古田】
Parula Hkodai
江古田にあるパン屋。店主原田さんとの出会いから、2020年頃、「まちのパラー」と「まちの保育園」が一緒にある構想が育てられた。2022年、忘れもしない震災でスタートが遅れたり大変な時期もありましたが、なんとかかんとか、開店から15年が経つ。これから大事にこの構想を育てて行きたい。

【花見、雨だけどね】
はなみあめだけどね

【畑】
はたけ

【ブルチーゾのパン】
まちのパラーのパン。これは、ワインに合います。

【プロセス】
Processes
結果の出来栄よりも、プロセスそのものがおもしろいし、大事。

【変化】
ひんか

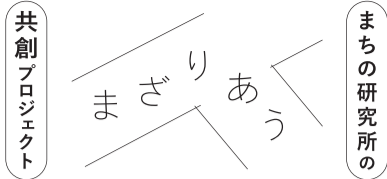
代々木公園の園のテーマであり、全体でも、大事にしている感覚。ゆらぎをポジティブに捉える。変化を楽しむ領域と、変化しないこととこぼれる領域と。

松本さんに聞いてみたいこと募集中

読者の方（職員の方も大歓迎）からの質問を募集しています。些細なことでも大丈夫です。もしお寄せください!
●前回は寄せていただいたみなさん、どうもありがとうございました!



青砥 瑞人（あおと・みずと）●1985年、東京都出身。高校を中退後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）神経科学学部を飛び級で卒業。最先端の神経科学の理論を応用して、教育現場や企業における人の成長やWell-beingのヒントを与えることを目的に2014年、DANCING Einsteinを創設。AI技術も駆使し、NeuroEdTech/NeuroHRTechという新分野も開拓。主な著書に「HAPPY STRESSストレスがあなたの脳を進化させる」（SBクリエイティブ）など。



VOL.3
クリエイティブスクール レンズ

2025年4月16日。まちの研究所の新プロジェクト、
クリエイティブラーニングスクール「レンズ」が世田谷区
旧池尻中学校跡地活用事業「HOME/WORK VILLAGE」内に
開校しました！今回は「レンズ」について、ご紹介いたします。

レンズでは、一期生を現在募
集中です。現地説明会も随時
開催しております。
詳細はホームページにて▶



自分自身の興味や関心を起点に、
多様な視点を共有し、世界を広げていく
学び合いの場。

わたしたちの事業の軸である「まちの保育園」は、
1園目の小竹向原園が開園してから14年が経ち
ました。卒園児たちのフィールドも小学校・中学校・
高校、そして大学へと広がっています。かね
てから、保育園・幼稚園・こども園を卒園した
こどもたちが安心して過ごせる居場所づくりや、
乳幼児期に自分の興味や関心から存分に探究
していた子どもたちが、小学校進学以降も創造的・
探究的な学びを継続できる場、クリエイティブ
コンフィデンスを育む環境について構想して
きました。レンズはこの第一歩になります。

こどもたちはこれから、答えのない世界・変化の
時代を生きていきます。教育の未来を描いた
「OECD Education 2030」*では、「複雑で不確か
な世界を歩んでいく力」のひとつとして「新たな
価値を生み出す力」をあげています。

レンズでは、「好き」について考え続け、さらに深く
理解するために多様な視点から「好き」を見つめ
ます。ひとつの事象をいろいろな角度から見て、
考え続けることができる「思考のためのスキル」
として、未来を生きるための大切な力になると、
私たちは信じています。

様々なツールと素材にワクワクが広がるアトリエ。
道の歩み方よりも、自身の好きと向き合い続ける
面白さ、実社会とつながる知識を伝えてくれる
専門家の存在。同じ興味をもっている子ども同士
の協働。出会い、観察と対話を重ね、発想や表現、
探究へとつながっていく。自分なりの問いを生み
出していくプロセスを、いっしょに見つめていきます。

レンズの環境



こども同士が自然に出会い、対話や協働的な探究
や気づきが生まれるように環境を設計しました。
こどもの創造を支えるアトリエとして、粘土や絵の具、
ハサミ、筆、紙、自然物、デジタルツールなど様々
なものを揃え、子どもたちが興味を持ったもの
について、自ら探究・探索し、創作活動を広げていく
きっかけをつくります。

こどもたちが様々な表現言語に出会い、創造力や
探究心を引き出すため、棚の高さや配置、素材の
置き方など一つ一つ検討し、また、こどもたちの姿
からその環境は常にアップデートしています。



こどもの学びのプロセスはドキュメンテーションと
して、レンズのメンバーシップ会員内に共有されます。
こどもたちの豊かなアイデアや声に耳を傾け、こども
たちの学びや育ちと一緒に喜びあっています。

レンズのひと

レンズでは、学びを支える二つの役割
「ラーニング・コーディネーター」と
「ラーニング・パートナー」が子どもたちの学び
に伴走し、探究する機会を広げていきます。

- ラーニング・コーディネーター
学びの流れや環境をデザインし、こどもが
自由に発想し、探究を深められる場をつくる人。
- ラーニング・パートナー
特定の分野に情熱を持つ"ギーク"。
こどもたちとともに学び、探究を楽しみながら、
その面白さを伝える人。

こどもが主体的に学びに没頭するためには、周囲
の大人の関わり方も大切だと考えています。レンズ
では、大人自身が探究や創造を楽しむ「ファン・
ラーナー」としての姿勢を大切にしています。



大人が自らの興味や関心を子どもたちと共有し、
プロジェクトに寄り添うことで、こどもたちの探究
心はさらに深まっていきます。大切なのは、大人が
「一緒に楽しむ」こと。時にはコラボレーターとして、
アイデアを出したり、サポートをしたりしながら、
共に学ぶ喜びを分かち合います。
レンズでは、こどもと大人が共に学び合うことで、
より豊かな場を生み出していきます。

レンズのテーマ

レンズでは身近にあるテーマを軸に、年間を通して
探究を深めます。2025年はこの4つです。

しよく(食)
食べることは、生きること。人間の血となり
肉となる食べ物。この野菜や、肉や魚はどこ
から来ているの？どんな人が関わって、どう
世界とつながっているんだろう？じっくりと
素材を五感で味わい、食をめぐる広がりにも
目を向けていきます。

まち(街)
自分の家、だれかの家、学校、いつもの
公園、よく行くお店。道路や道を歩く人、
自転車、車、電車。まちは、さまざまな要素が
集まり、関わりあってできています。「まち」を
構成するものを観察し、自分と世界のつな
がりを探っていきます。

ふく(服)
好きな服を着ると、うれしくなる。その服には
どんな物語があるんだろう？どんな素材？
どうやって作ったんだろう？服を解体して
観察してみると、ボタンや縫い目にも知らな
かった工夫や技術がみえてきます。

むし(虫)
虫の色や形のおもしろさ、不思議な動き、
身を守るための様々な技。驚きに満ちた
虫の世界に出会えます。生態や役割、人や
他の生き物との関係性をみつめながら、
未来へと探究を広げていきます。

こどもたちの探究のなかで日々生まれる様々な
出会いや気づき、子どもたちの豊かな表現は、
常に驚きに満ち、新たな視点をくれます。
一人ひとりの、ちがいは宝物。好きや得意から学び
がひらかれていくワクワクをいっしょに楽しみ
ながら、こどもたちと一緒に、レンズを重ね合わせ
ていきたいと思っています。

*OECD(経済協力開発機構)が立ち上げたプロジェクト。世界全体があらゆる分野で様々な変革の波が押し寄せることが予想される2030年という時代を生きていくために、どのような教育が必要なのかOECD加盟国で考えていくもの。



● レンズが入居している施設「HOME/WORK VILLAGE」は、現在プレオープン中。7月末にグランドオープン予定しています。2004年に廃校となった池尻中学校の校舎、体育館、校庭を活用し、商業施設、教育・文化施設、オフィスなどの機能が集積した「働く」「遊ぶ」「学ぶ」人々の暮らしが緩やかにつながる複合施設になる予定です。入居者のみなさんと子どもたちのコラボレーションを、今から楽しみにしています！

Qレンズ

対象：4～9歳(年中児～小学校3年生)
東京都世田谷区池尻2-4-5
HOME/WORK VILLAGE 207号室

INFORMATION

EVENT イベントのお知らせ

「ボーダークロッシング展」
奈良への巡回決定！



2025年1月よりスタートした、レッジョ・エミリア・
アプローチによる「子どもと自然とデジタルの出会い」
をテーマとしたアトリエ併設型の国際展覧会。
好評につき奈良県での追加開催が決定しました！

会期：
6月12日(木)～6月22日(日)(月曜休館)
開室時間：
平日・休日：10時～17時(最終入場16:30)
会場：
なら歴史芸術文化村
(〒632-0032 奈良県天理市袖之内町437-3)
資料代：
一般1,000円、学生・未就学児 無料
主催：
JIREA (Japan Institute for Reggio Emilia Alliance)
一般社団法人ORIECC (Organization for Research
on International Education and Care for Children)
共催：
みりおらーれ、なら歴史芸術文化村
協賛：
株式会社スマートエデュケーション/KitS
協力：
東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター (CEDEP)
監修：
Reggio Children

「FAMILY GREEN アトリエ」
麻布台ヒルズでスタート



次回開催：5月24日(土)
港区麻布台地域における、こども・子育て家庭
のための居場所づくり、つながりや賑わい創出
のため、新プロジェクト「FAMILY GREEN アト
リエ」が森ビル株式会社と協働で麻布台ヒルズ
を拠点に始まりました。今後、月1回を目安に開
催していきます。お近くの方はぜひ遊びに来て
いただくと嬉しいです！

一時保育(預かり)事業
小竹向原園にて開始しました

2025年4月より、まちの保育園 小竹向原にて
一時保育(一時預かり)事業を開始しました。
対象：完了食が食べられる、
生後1歳の誕生日翌月1日～就学前まで
の健康で集団生活が可能なお子さん
●まちの保育園グループでは、「まちのこども園
代々木上原」でも一時保育を実施しております。
(対象：渋谷区内にお住まいの生後5ヶ月～)

BOOKS 関連書籍/掲載情報



ボーダークロッシングス
一行き来る、その先へー
展覧会図録

2025.3.30 刊行(中央法規)

こしぶや
リゾナーレ大阪
掲載



子どものためのデザイン
グラフィック社編集部 編
鉄矢悦朗 解説

2025.2月 刊行(グラフィック社)



Forbes JAPAN
2025年6月号
「NEXT 100」に弊社松本を選出
いただきました。
2025.4.24 刊行(リンクタイズ)

あとがき

「まちのね」第三号、ここまでお読み
いただきありがとうございました。
まちの保育園・こども園、まちの研
究所ではたらく「人」にフォーカスした
特集「わたしの好きな景色」。それ
ぞれの目につける・心に留まる風景
を通して、少しでも人となりや体温
が伝わる誌面になっていたら嬉しい
です。

回を重ねることに文字数が増えて
いる気がする本誌、文字が小さくて
読みづら～いなど、どんなご意見
でもお気軽にお寄せいただくと励み
になります。また、「まちのね」をう
ちに置いてほしいよ！という方がもし
いらしたら、ぜひご連絡ください。
今回もご協力いただいたみなさま、
ありがとうございました！

まちの研究所



HP



note

まちの保育園・こども園



HP



Instagram

本誌に関するお問い合わせ：press@machihoiku.jp